

私 が 変 わ る 、 世 界 が 変 わ る
Freedom School
NPO 法人
さっぽろ自由学校

遊

市民が
つくる、
市民の
ための
学びの
場



2021年

後期 講座案内

2021年10月~2022年3月

もくじ

【語学】 出会う英語 ☆英語で語ろう☆	3
【語学】 ハングル 最初の一歩から	
【社会】 公開研究会 森林の権利とアイヌ民族	4
【社会】 多様性の国 インドを知ろう	5
【暮らし】 人も動物も満たされて生きる —アニマルウェルフェアをめぐる part 5	6
【社会】 ベーシックインカムとは何か —資本主義の未来を考える	7
【社会】 ミャンマー（ビルマ）で、いま何が…	8
【歴史】 明治のサッポロのアイヌ史を掘る	9
【文化】 越境する人と文化を通して読み解く東アジア	10
【社会】 ウコチャランケ - 話し合い - —アイヌとしての思いを伝え、表現する	11
【歴史】 まず歴史の事実を知ろう —日本の歴史認識	12
【暮らし】 このままでいいの？再生可能エネルギーの進め方 part 9	13
【暮らし】 協同労働が社会を変える —労働者協同組合法の成立と新しい働き方	14
【歴史】 産金・産油大国のソ連崩壊 30年 —篤農家と小農家経営を清算した歴史的禍根	15
【対話】 選んだ人ととざっくばらんに！民主主義って何だ？政治家と語ろう	
【暮らし】 衣食住を相対化する —新しいライフスタイルの模索	16
【文化】 電子書籍出版実践講座 2021	
【暮らし】 老いと向き合う part 6	17
【歴史】 過去を今に伝える現在のサハリン —歴史理解を深めるために	18
【文化】 新・北海道アート講座 —コロナ後の美術鑑賞について	19
【文化】 アイヌアートデザイン教室	20
【交流】 読書室よりみちまわりみち	
【読書会】 花さんと読む、詩の世界 —茨木のり子と石垣りん	21
【読書会】 マルクス・エンゲルス著『共産党宣言』を読む	
【読書会】 『人新世の「資本論」』を読む	22
【読書会】 『大学による盗骨』を読む	
【研究会】 カムイチェブ・プロジェクト研究会	23
SDGs 北海道メジャーグループ・プロジェクト	



表紙デザイン いのうえしんぢ

<受講料（参加費）について>

- ・連続講座の受講料は、記述のないものは通しの料金です。「単発」とあるものは1回毎の参加料金となります。
- ・受講料の種別について
 - 会 員：さっぽろ自由学校「遊」の正・準会員の方。
なお、特別会員の方は**単発参加設定のある連続講座に無料で参加**できます。
 - 一 般：上記以外のすべての方が対象です。
(25歳以下の若者は、特別料金で参加できます)

講座の開催形態とお申込方法

講座の開催形態は、①会場実施のみ、②会場とオンラインの併用、③オンラインのみ、の3種類となっています。以下のロゴマークを参照ください。



会場実施



会場
オンライン併用



オンライン実施

講座受講のお申込は、以下のいずれかの方法でお願いいたします。

<方法1> 申込はがきに必要事項ご記入のうえ、投函ください。

<方法2> 右のQRコードより、申込フォームにご記入のうえ、お送りください。

(さっぽろ自由学校「遊」のウェブサイトからもアクセスできます)



<方法3> 以下のメールアドレス宛に、「講座申込」のタイトルで希望の講座名(単発の場合、日程も)、受講形態(会場/オンライン)、お名前、ご住所、メールアドレスを記入のうえ、お送りください。 moshikomi@sapporoyu.org

新型コロナウイルス感染症への対応について

さっぽろ自由学校「遊」では現在、新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から以下の対策を行っています。

教室で実施するすべての講座につき、定員を設けます(特に記載のない講座については定員15名とさせていただきます)。講座受講をご希望の方は、必ず事前申込をお願いいたします。なお定員になり次第、受付を終了させていただきます。オンライン受講につきましてはこの限りではありません。

対面での参加については、以下の対応についてご了解ください。

- ・マスクの着用を参加の条件とさせていただきます(マスク着用のない場合、入場をお断りします。健康上の理由でマスクが着けられない方は、あらかじめご相談ください)。また、入場のときに手指の消毒をお願いしています。
- ・座席の間隔を空けるとともに、定期的に換気します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況の変化によって、上記の対応等については変更の可能性がありますことをあらかじめご了承願います。

出会う英語

☆英語で語ろう☆



英語は、世界中の異なる文化や歴史を持つ人々と交流するためのツールの一つです。しかし、普段使わないと、いざと言うときになかなか出てこないものです。この講座では、身近な話題やニュースを切り口に、自分の意見を英語で表す力を身に付けます。日常使う会話や基本的な文法も交えながら学んでいきます。「英語は苦手」と言う人も、拙くても間違っても大丈夫。話してみるのが第一歩!! 英語で世界と会いましょう。

日程 10月11日(月)開講

後期18回(～3/14)

毎週月曜 19:00～20:30

会場 さっぽろ自由学校「遊」

(愛生館ビル5F 501A)

*新型コロナウイルス感染対策として、会場では少数で行います。オンライン受講を希望する方はお気軽にお問い合わせ下さい。

定員 10名(最少催行5名)

受講料 一般30,000円 会員28,500円

25歳以下24,000円

*体験(1回のみ)1,000円

講師 アンドレス・パトリシアン

フィリピン出身

皆様へ～メッセージ～

Hi! I'm Patrician and I'm from the Philippines. I have been teaching English as a second language here in Japan for the past 10 years and have been involved in a lot of multicultural activities both here in Japan and abroad.

Let's enjoy speaking English as we talk about current issues happening around the world.

Levels do not matter! We can all learn from each other! Let's improve our English skills and get ready to become a part of the global society. See you!



ハングル 最初の一歩から



耳に入ってくるハングル、ここ暫く、街中ではすっかり減ってしまったのは残念。でも独特な文字を目にすることや、食べたり観たりでハングルに触れる機会はとて多くなっている。語順がほとんど同じで漢字を借用してきたことなど、日本語ととても近い。一方、母音の多いことや子音で終わる語彙が少なくないことなどが近寄りがたくしている? そのハングルを「遊」の教室で学びます。一緒にしませんか。

日程 10月21日(木)開講

後期18回(～3/3)

毎週木曜 19:00～20:20

会場 さっぽろ自由学校「遊」

(愛生館ビル5F 501A)

定員 10名(最少催行5名)

受講料 一般30,000円 会員28,500円

25歳以下24,000円

*体験(1回のみ)1,000円

テキスト 『できる韓国語初級I』 2,200円

『同 ワークブック』 1,200円

(いずれも DEKIRU 出版 市内書店にて購入可)

講師 コ・ソングョン

北海道大学大学院 文学院



～講師からのメッセージ～

みなさん、韓国語を聞いたことはあるでしょうね。知っている韓国語はありましたか。お隣の韓国の人々はどのような考え方をしているのか、またどう暮らしているのか。私と一緒に韓国語を学びながら韓国と韓国人の色々な面を覗いてみませんか。楽しく学んでいきましょう!

公開研究会 森林の権利とアイヌ民族



アイヌ民族の生業や文化は、ヤウンモシリ（現在の「北海道」島）に広がる大規模な森林に大きく依存していました。ここでいう森林には、森林地帯を流れる河川や湖沼、そこに生息する多くの動植物が含まれます。アイヌ民族の森林の権利がいわゆる「北海道開拓」によって奪われ、その森林は多くの日本人開拓者に与えられて「開墾」され、現在の「北海道」が出来上がったことは、みなさんの知るところです。2019年の「アイヌ施策推進法」を前後して、アイヌ民族と森林のこの関係に新たな転機が訪れようとしています。アイヌ民族の先住権の一部として、この「新たな転機」を考えたいと思います。

日程 10月18日（月）開講 全3回 月1回第三月曜 19:00～21:00
会場 オンライン開催（zoom 使用）
参加費 通し 2,400円 25歳以下 1,200円（単発 1,000円/回 25歳以下 500円/回）
コーディネーター 小林 舞（こばやし まい）
 京都大学学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット／経済学研究科研究員
 立命館大学政策科学部、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 非常勤講師

10月18日（月）第1回

アイヌ民族と森林問題の動き —2019年「アイヌ施策振興法」を中心に

●上村 英明（うえむら ひであき）
 恵泉女学園大学教授、市民外交センター共同代表、国際人権法（先住民族の権利）を専門。

2019年に制定された「アイヌ施策推進法」に前後して、アイヌ民族と森林の権利に関していくつかの問題が提起されています。森林との関係がどのように変化しようとしているのか、まず現実の変化をいくつか紹介しながら、これを全体として概観します。「アイヌ施策推進法」の新たな検証の場になるかもしれません。

11月15日（月）第2回

共用林野制度の沿革と特質 —アイヌ共用林の限界と可能性

●齋藤 暖生（さいとう はるお）
 東京大学演習林講師。専門は森林政策学、植物・菌類民俗。
 アイヌ施策推進法において、森林利用について規定された唯一の手段が「アイヌ共用林」です。これは、国有林の共用林野制度を準用しています。この制度の沿革をたどることで、アイヌ共用林に潜む課題と可能性を読み解いていきます。

12月20日（月）第3回

先住慣習権の保障と森林認証制度

●内藤 大輔（ないとう だいすけ）
 京都大学農学研究科助教。専門は東南アジア地域研究、ポリティカル・エコロジー。

森林認証制度は、持続的な森林管理を第三者が保証するものです。その特徴の1つとして、認証取得者に先住慣習権の保障をにもとめています。その運用実態についてはまだ十分明らかになっていません。認証制度導入の事例から、森林認証制度の導入とその課題について探っていきたく考えています。



多様性の国 インドを知ろう



日本人はなぜインドに惹かれるのでしょうか。多様性とバイタリティーの国インドの様々な局面を知り、日本との違いに興味を覚えたり、違和感を感じたりしているうちに、見えてくるのは私たちの国日本の特質でもあります。

日程 10月20日（水）開講 全5回 月1回水曜 19:00～21:00
会場 オンライン開催（zoom 使用）
参加費 通し 4,000円 25歳以下 2,000円（単発 1,000円/回 25歳以下 500円/回）
講師 ラトール 旅子（らとおる たかこ）
 インド国立中央ヒンディー語学院でヒンディー語を学び、計三年半インドに住む。北海道大学非常勤講師。インド事情やヒンディー語の紹介を通してインドへの理解を深める活動をしている。

10月20日（水）第1回

インドの多様性（1）—食文化等

インドの多様な気候や言語地図、食文化の地域性、服飾文化に沁み込んだインドの伝統等を学び、さながらオンラインで異文化旅行をしているように楽しみたいと思います。

11月17日（水）第2回

インドの多様性（2）—生活文化等

インドの建築の特徴、また都市部と農村部のライフスタイルの違いを学びます。インド人の日々の楽しみは何か。インド伝統の芸術文化は今日どのように生きているのかも垣間見ます。

12月15日（水）第3回

インドの経済、社会問題

近年のインドの経済躍進とその問題点について。インド経済を地域的に、産業別に概観していきます。貧困問題の現状についても解説します。

1月19日（水）第4回

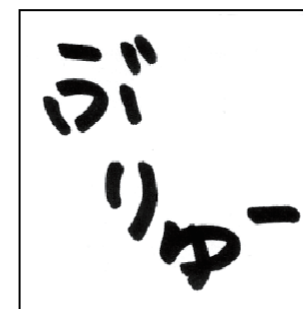
インドの政治、教育

インドの政治の仕組み、現政権の状況と課題、教育の現状、インドの青少年の憧れの職業は？インドの抱える様々な社会問題についても考えます。

2月16日（水）第5回

インド人の価値観

インド人が人生で大切にしているものは何か。家族の絆、宗教観、インド思想における体と心の捉え方、インド人の愛好するものは何かなどを探っていきます。



内科・神経外科
**札幌中央
ファミリークリニック**
 外来一般診療
 月火・木金 9:00～11:30
 外来は予約してください
 札幌市中央区南1条西11丁目
 ワンズ南一条ビル6F
 TEL.272-3455

雑貨（もの）・ひと・食のひろば
みんたる
 MINTARU
フェアトレード雑貨&レストラン
 札幌市北区北14条西3
 Tel&Fax.011-756-3600
 http://www.mintaru.com
 営業時間/11:45-18:00（夜は予約制）
 定休日/日・月・祝日

人も動物も満たされて生きる

—アニマルウェルフェア（家畜福祉）をめぐる part 5



アニマルウェルフェア（動物福祉）の語源は、「（人も動物も）満たされて、生きている」状態。家畜福祉については、消費者の認知度はまだ低く、ストレスから自由な飼育環境にない農場も少なくありません。第4期までの講座を受けて、家畜福祉だけでなく、伴侶動物や展示動物のアニマルウェルフェアも学びます。放牧酪農家や動物保護団体のメンバー、動物園の飼育スタッフ、研究者らが講師になり、普及に向けた課題や人と動物とのより良い関係を創る道筋を探っていきます。

日程 10月23日（土）開講 全6回

月1回第四土曜 14:00～16:00 ※第2回（11/27）のみ12:30～14:30

会場 オンライン開催（zoom使用）

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,500円

（単発 1,000円/回 25歳以下500円/回）



10月23日（土）第1回

世界と日本のケージフリー活動と企業の動向

●上原 まほ（うへはら まほ）

「ザ・ヒューメイン・リーグ・ジャパン」リージョナルマネジャー（東京）

いま世界的に家畜の取り扱いが問題視され、鶏の「100%ケージフリー卵」の調達に変える政策を掲げる企業が増えています。そうした世界の企業の動きと日本への影響、今後の展望をお伝えします。

11月27日（土）第2回 ※12:30～14:30

放牧酪農家から見たアニマルウェルフェア

●高橋 正明（たかはし まさあき）

「放牧酪農家の考える食と生命の会」代表（別海町）

除草剤や遺伝子組み換え飼料の問題点を指摘する一方、「生きものがみんな幸せに」「健康になれる牛乳・牛肉の生産」の理念を掲げるグループを創った放牧酪農家が、アニマルウェルフェア（AW）について語ります。

12月11日（土）第3回

学生たちが思うアニマルウェルフェアとは？

●平出 沙彩（ひらで さあや）

青山学院大学の動物愛護団体「きすあに」創設者

●高野 雅（たかの みやび）

「農場動物の動物福祉について考える会（TAF）」代表。麻布大学獣医学部学生

それぞれの立場から家畜を取り巻く環境に疑問を抱き、アニマルウェルフェアに関連する団体の運営を経て行き着いた考えを、対談方式で皆さんに伝えられたらと思います。

1月22日（土）第4回

アニマルウェルフェアとのつながり方

●岡田 朋子（おかだ ともこ）

「新潟動物ネットワーク（NDN）」代表

犬や猫の動物愛護活動を続けているうちに、アニマルウェルフェアと出会いました。（多分）誰もが悩む、このテーマにどんなふうに取り組めるのか…。その道のりをお話します。

2月26日（土）第5回

動物園のアニマルウェルフェア

●山本 秀明（やまもと ひであき）

札幌市円山動物園飼育展示課長（獣医師）

現在、動物園や水族館では、世界的な流れとして、動物福祉の向上が求められています。動物園動物のウェルフェアとは何か、どんなことをしているのか、円山動物園での取り組みを紹介します。

3月26日（土）第6回

日本のアニマルウェルフェア普及に向けた課題

●松木 洋一（まつき よういち）

日本獣医生命科学大学名誉教授（農業経済学）

アニマルウェルフェア研究の第一人者が具体例を交え、国内外の家畜福祉の到達点や課題について解説します。AWの普及に向けた今後の取り組みをともに考える、まとめの講座になります。

ベーシックインカムとは何か

—資本主義の未来を考える



最近、日本でも再びベーシックインカムが注目されている。諸外国では、イタリアは、2019年4月、スペインでは2020年6月より導入され、フランス、ドイツでも導入が検討されている。日本国内でもコロナ禍の経済的対策として、特定給付金として、今のところ1回限りだが、現金10万円が全国民に給付された。また竹中氏の発言「10万円の給付はうれしいが、1回では将来への不安も残るだろう。例えば、月に5万円を国民全員に差し上げたらどうか。その代わりにマイナンバー取得を義務付け、所得が一定以上の人には後で返してもらう。これはベーシックインカムといえる。実現すれば、生活保護や年金給付が必要なくなる」（『エコノミスト』6月2日号）に始まった問題を契機として、ベーシックインカムが再び議論され始めている。本講座では、ベーシックインカムの本来の意義を振り返るとともに、海外での実施状況をも踏まえ、とりわけ社会保障との関連を踏まえ、日本での導入を検討していくことにしたい。

日程 10月1日（金）開講 全5回 月1回金曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F501A）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

講師 樋口 浩義（ひぐち ひろよし）

東京都葛飾区生まれ、63歳。岩手県立盛岡短期大学（現岩手県立大学）専任講師、助教授をへて、水戸短期大学准教授、教授（その後退職）。専門は会計学だが、その中で最近10年間は、とりわけ、公会計学に関心を持ち、政府予算管理の立場からベーシックインカム論を研究中。日本ベーシックインカム学会会長。



10月1日（金）第1回

ベーシックインカムとは何か

中世のトマス＝モアの『ユートピア』から始まり、現代に至るベーシックインカムの歴史的由来を検討するとともに、現時点で問題とされているベーシックインカムや日本国内における議論の状況を紹介していく。

11月5日（金）第2回

ベーシックインカムの諸外国での導入状況

現時点での諸外国や日本でのベーシックインカムの事例を紹介する。

12月3日（金）第3回

我が国でのベーシックインカム導入案

わが国で導入が考えられる導入パターンについて社会保障と財源から実現可能性を考察する。

2月4日（金）第4回

ベーシックインカムの導入と財源（税収かMMTか）

3月4日（金）第5回

経済成長か環境重視か

—ベーシックインカムを検討する新たな視点

ボランティア・インターン募集！

さっぽろ自由学校「遊」は、市民が自主的に運営している「学びの場」です。その運営は多くのボランティア・スタッフによって支えられています。単純作業のお手伝いといった軽い関わりから、講座のコーディネートなどの深い関わりまで、様々な関わり方が可能です。活動に興味のある方は、事務局までご連絡ください。学生などのインターンも募集しています。

＜ボランティアの内容例＞

- ・発送作業のお手伝い
- ・広報協力
- ・テーブル起こし
- ・講座時の受付対応
- ・会報誌の編集
- ・講座のコーディネート など

ミャンマー（ビルマ）で、いま何が…



2021年2月の軍事クーデターに対し、ミャンマー（ビルマ）の人びとは街頭へと繰り出し、大規模な抗議行動を繰り広げましたが、すさまじい軍の弾圧により多くの犠牲者が生じています。こうした事態の中、道内在住のミャンマーの方々も不安定な状況にもかかわらず、祖国の民主化を求めて声をあげています。歴史的にも、現在も、日本との関わりが深いミャンマー（ビルマ）でいま何が起きているのか知ると共に、私たちには何ができるのか皆さんと共に考えます。



日程 10月8日（金）開講 全6回 月1回金曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

10月8日（金）第1回

ミャンマーで何が起きているのか

●ウィン ミン トウン

Myanmar Youth Association Hokkaido (MYAH)

他、道内在住ミャンマー人の皆さん

ミャンマーはいまどのような状況なのか、ミャンマーの人々はどのような状態を望んでいるのか、北海道で暮らすミャンマー人の方々に直接お話しいただきます。

11月12日（金）第2回

クーデター、民主化運動の歴史的背景

●道内在住ミャンマー人の方

ミャンマー軍の成り立ちや学生たちによる民主化運動の歴史、少数民族と軍との関係など、現在の状況の背景にある歴史的経緯についてお話しいただきます。

12月10日（金）第3回

ミャンマーの文化と暮らし・民族

●HAYASHI THIN THIN NAING（林 テン テン ナイ）

ミャンマー語通訳・翻訳

私は、日本に住んで30年間になります。日本人と結婚し、息子と3人で暮らしています。これまでミャンマー文化の担当者として学校訪問を10年以上しています。ネットで検索できないミャンマー文化も楽しく話したいと思います。

1月14日（金）第4回

ミャンマーと日本とのつながり

ー経済「協力」と国軍

●木口 由香（きぐち ゆか）

メコン・ウォッチ事務局長

日本は過去にはその資源開発、「民政化」後は市場としてミャンマーに強い関心を抱いてきた。両国はこれまでどのようにつながってきたのかを開発問題から概観し、クーデターを起こした国軍との関係を考える。

2月11日（金）第5回

在住ミャンマー人たちのこれから

●西千津（にし ちず）

カトリック札幌司教区難民移住移動者委員会

日本政府は、母国の情勢不安を理由に日本への在留を希望するミャンマー人について、緊急避難措置として在留や就労を認めることにしたが、一時的な措置でしかない。難民認定はあるのか？入管法は今後どうなるのか？今後の課題を一緒に考えたい。

3月11日（金）第6回

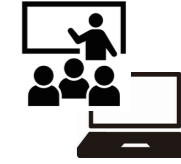
私たちに何ができるのか

ー日本人に求められていること

●道内在住ミャンマー人、市・道議会議員ほか

祖国の民主化を求めて声をあげるミャンマーの若者たち。私たちの隣にいる彼らの声に、私たちはどう応えればよいのでしょうか？皆さんと共に考えたいと思います。

明治のサッポロのアイヌ史を掘る



東京オリンピックの華マラソンは、2021夏、札幌駅前や北大の構内を駆け抜け、世界中の人々の記憶に刻まれた。しかし、明治時代の初めまで、そこにアイヌ・コタンがあったことを思い出す人はいるだろうか？ここ数年、新しい史実が次々に明らかになっている。一極集中で発展を続ける大都市札幌の原点としての明治のアイヌ史の実像を学び直したい。

日程 10月13日（水）開講 全6回 月1回第二水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

10月13日（水）第1回

札幌中心部のコタンはどこにあったか？

ーコトニ・コタンを中心に考える

●谷本 晃久（たにもと あきひさ）

北海道大学大学院文学研究院教授

近代の計画都市のイメージが強い190万都市・札幌。しかし古地図や古文書を紐解くと、明治初頭に複数のアイヌ民族の集落（コタン）が存在していたことが知られる。では、それはどこにあったか？具体的に考えてみたい。

11月10日（水）第2回

開拓使、川でのサケ漁を禁止する

●山田 伸一（やまだ しんいち）

歴史研究者

開拓使（1869?1882）は、河川に遡上するサケの漁に制限を加えた。1878（明治11）年には豊平川など今の札幌市内の川でのサケ漁を禁止し、「密漁」を取り締まる。禁漁の背景やその影響を考える。

12月8日（水）第3回

東京で学んだサッポロのアイヌたち

●広瀬 健一郎（ひろせ けんいちろう）

鹿儿島純心女子大学人間教育学部・教員

開拓使は、1872年?1875年の間、東京でアイヌ青年に日本語の読み書きや算術、農業等の指導を行いました。東京で学んだサッポロのアイヌ青年を中心に、この施策が彼/彼女らに何をもたらしたのかを考察します。

1月12日（水）第4回

樺太アイヌ＝エンチウの「戦後」

●檜木 貴美子（ならき きみこ）

樺太アイヌ協会副会長、札幌在住

私たちは自らを「エンチウ」と呼びます。先祖は樺太千島交換条約で故郷から宗谷へ、さらに石狩川を遡上し江別の対雁（つしかり）へ強制移住させられ、多くの命が犠牲になりました。その遺骨を故郷へ帰りたいと願っても大きな壁があります。

2月9日（水）第5回

コトニ・コタンへの旅

●小田 博志（おだ ひろし）

北海道大学大学院文学研究院・教員、専攻・人類学

現在の北大構内の土地にかつてあったコタンの墓地から、明治初期に頭骨が盗み出された。その「人」の故郷への帰還はまだ終わっていない。その未完の旅を辿りながら、北大の、札幌の脱植民地化を考える。

※この回のみ、読書会「『大学による盗骨』を読む」との合同講座となります。

3月9日（水）第6回

明治期石狩川のカムイチェブ（サケ）

●平田 剛士（ひらた つよし）

フリーランス記者

石狩川のサケは、日本の北方進出によって最も搾取された地域個体群と言える。サケをカムイチェブと呼ぶ流域のアイヌも甚大な影響を被った。いま先住民の権利回復運動のシンボルとなった「川サケ」に光を当てる。



北大構内を流れるサクシュコトニ川

越境する人と文化を通して読み解く東アジア

—地域から東アジアの多文化共生を考える



本講座では、前期に続いて越境する人と文化を通して東アジアを読み解いていきます。後期ではローカル地域に焦点を当て東アジアの多文化共生について考えます。具体的には、比較の視点を取り入れて、ローカルとグローバルを結ぶ人と文化（食、音楽、スポーツなど）に着目し、日中韓のそれぞれ二つの地域を取り上げます。本講座を通じて皆さんには、多文化共生を身近に考え、東アジアの歴史や文化、そして人間に対する理解を深める一助となることを願っています。講座では文献資料と映像資料を用いるほか、フィールドワークを通して得た研究結果から現場の声を適宜紹介します。



日程 10月19日(火) 開講 全6回 月1回火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般 6,000円 会員 4,800円 25歳以下 2,400円
(単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回)

講師 朴仁哲(ぼくじんてつ)

中国黒竜江省生まれ、1997年来日。1999年から通訳・翻訳者として日中韓の草の根の交流に関わっています。北海道大学教育学博士。多文化共生・国際交流研究事務所所長、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所研究員。専門は外国語教育、東アジア地域研究、人の移動と移民研究、多文化共生・国際交流研究。
HP: <https://sapporobc.wixsite.com/officeyou>

10月19日(火) 第1回

韓国の全羅道を事例として

1回目と2回目は、韓国の二つの地域に着目して東アジアの多文化共生について考えます。1回目に紹介する全羅道(チョンラド)は、韓国の南西部に位置しており、食文化と伝統芸能の宝庫とも呼ばれています。全羅道は戦前、多くの日本人が暮らしていた地域であり、また日本と中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。

11月16日(火) 第2回

韓国の慶尚道を事例として

慶尚道(キョンサンド)は韓国において、日本の様々な地域と地域間交流を盛んに行っている地域です。慶尚道も戦前、多くの日本人が暮らしていた地域であり、また日本と中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。

12月21日(火) 第3回

中国の山東省を事例として

山東省は孔子と孟子の故郷であり、脈々とした知恵が生き続けている地域であり、多くの国内外への移住者を送り出した地域でもあります。特に韓国に居住する華僑の多くが山東省の出身です。また、炸醬面(ジャージャン麺)や拔絲地瓜(パースーディーグワ básī diguā 日本名: 大学芋)などの山東料理は、人の移動とともに海外へも伝播し、国際食となっています。3回目は、山東省をルーツとする人と食文化を通して東アジアの多文化共生について考えます。

1月18日(火) 第4回

中国の東北地域を事例として

かつて中国の東北地域(旧「満洲」)には、国内の山東省から多くの人々が移り住み、日本からも多くの人々が移り住みました。そのなかには、日本の東北地方の出身者が多かったと言われています。4回目は、3回目と5回目と関連づけて、人の越境現象を通して東アジアの多文化共生について考えます。

2月15日(火) 第5回

日本の東北地方を事例として

日本の東北地方は、国内移住者だけではなく、海外移住者も多く送り出してきました。人の移動に伴い、食文化の伝播も生じました。5回目は日本の東北地方に着目し、人と食文化の越境現象を通して東アジアの多文化共生について考えます。

3月15日(火) 第6回

北海道を事例として

北海道には多様なバックグラウンドを持つ人々(アイヌ民族、在日コリアン、引揚者、留学生など)が暮らしています。またミニバレーやゲートボールなど北海道発祥のニュースポーツを通じた交流も活発です。そして、資源豊かな観光地として海外でも認識されています。

ウコチャランケ - 話し合い -

—アイヌとしての思いを伝え、表現する



民族共生象徴空間(ウポポイ)が2020年7月にオープンしたこともあり、テレビや新聞はここ数年、アイヌ民族を積極的に取り上げるようになりました。一方で、アイヌ民族の多様な思いは社会のひとりひとりにどれほど伝わっているのかという疑問もあります。こうした問題意識から、北海道新聞はこの年の10月、アイヌ民族をテーマにした「ウコチャランケ」という月1回程度の連載を始めました。「遊」では今回、同欄で原稿を書いたり、インタビューに答えたりしていただいた方々を講師として招き、紙面で伝えなかったことや、言い尽くせなかったことを語ってもらいます。受講者の皆さんと話し合いながら、思いを共有できるよう理解を深めていきたいと思えます。



日程 10月22日(金) 開講 全6回 月1回第四金曜 19:00～21:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般 6,000円 会員 4,800円 25歳以下 2,400円
(単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回)

コーディネーター 中村 康利(なかむら やすとし) 北海道新聞文化部編集委員、同紙「ウコチャランケ」欄担当

10月22日(金) 第1回

貝澤 耕一さん 二風谷の歴史を語り、森を守る

ナショナルトラスト・チコロナイ相談役、アイヌ(=ひと)の権利をめざす会共同代表、適切に管理された森林を認証する国際的な非営利団体・FSC(森林管理協議会)先住民族常設委員会委員などを務め、アイヌ民族の歴史、文化、権利について国内外で講演している。平取町二風谷在住。

11月26日(金) 第2回

川上 容子さん アイヌとして生きる、歌う

2006年、豊川容子名義でアコースティックユニット「zizi(ジジ)」のボーカルとして活動。2014年、アイヌの歌や踊り、オリジナルの楽曲などを披露するユニット「nin cup(ニンチュブ)」を結成。アイヌシンガー、「シケレバカレー デリバリー」店主。札幌市在住。

12月24日(金) 第3回

清水 裕二さん 民族共生の「おむすび型社会」

道内の中学や養護学校に勤務し、2001年、中札内高等養護学校校長で退職。北海道ウタリ協会江別支部(現江別アイヌ協会)支部長などを歴任。「北大開示文書研究会」共同代表や「コタンの会」代表を務め、アイヌ民族の遺骨問題や先住民族の権利の実現に取り組む。江別市在住。

1月28日(金) 第4回

原田 公久枝さん 多様な少数民族の尊重を願う

十勝のアイヌ民族の伝統的な歌や踊りを伝承する女性グループ「ファンペシスターズ」のメンバー、2020年6月に創刊したウェブ上のフリーペーパー「RUYKA ITAK(ルイカ イタク)」代表。札幌市在住。

2月25日(金) 第5回

小笠原 小夜さん(オンライン登壇予定) アイヌ文化のイラスト表現

イラストレーター。「道新こども新聞 週刊まなぶん」の連載「ミンタラ」のイラスト担当。「アイヌ語カルタ」やアイヌ文様を取り入れたカレンダーの作製、トラックの外装デザインなどを手掛ける。共著に池田忍編「問いかけるアイヌ・アート」(岩波書店)、北原モコットウナン編著「ミンタラ アイヌ民族27の昔話」(北海道新聞社)。東京都在住。

3月25日(金) 第6回

川上 恵さん 温かい気持ちで個性を認め合う多民族共生

首都圏のアイヌ民族の若者によるパフォーマンスグループ「アイヌ・レブルズ」に参加。帯広カムイトウウポボ保存会、札幌ウポボ保存会会員。札幌市在住。

まず歴史の事実を知ろう

—日本の歴史認識



日本の未来アジアの平和は、日本社会の歴史の継承と歴史認識の共有にかかっています。それにしても、歴史の事実で知らないことの多いことか。学校で教えられなかった歴史を前に、モヤモヤしていることの多いことか。人のアイデンティティも歴史認識を基盤に形成されます。それで日本の過去清算問題を考える場を作り、日本の未来を切り開きたいと考えます。どうぞご参加ください。

日程 10月25日(月)開講 全6回 月1回第四月曜 18:45～20:45

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F南側奥) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般4,000円 会員3,000円 25歳以下2,000円
(単発 1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 小林 久公(こばやし ひさとも)

強制動員真相究明ネットワーク事務局次長。日本軍「慰安婦」問題解決全国行動 資料チーム。戦争させない市民の風・北海道 事務局長。過去と現在を考えるネットワーク北海道 代表。

コメンテーター 林 炳澤(いむびょんてく)

さっぽろ自由学校「遊」共同代表。日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会 共同代表。

10月25日(月) 第1回

「慰安婦」問題とは何か

被害者の声とそれを裏付ける資料をもとに考えます。参考資料「日本軍『慰安婦』関係資料21選」をネットで見てください。

11月22日(月) 第2回

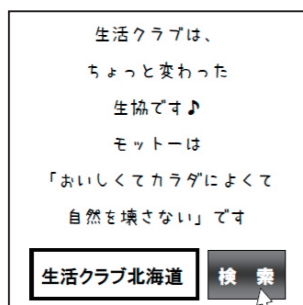
「強制連行を示す文書は無い」とは

日本政府は、「慰安婦」の強制連行を示す文書は無いといっていますがこれは本当でしょうか。

12月27日(月) 第3回

法的に解決済みとは

日本政府は、過去清算問題については「全て法的には解決済み」と言っていますが、法的に何が解決し、何が解決していないのかをかんがえます。



1月24日(月) 第4回

徴用工問題とは

韓国での日本の使役企業への損害賠償判決を中心に強制動員問題について考えます。

2月28日(月) 第5回

日韓条約での解決とは

1965年の日韓請求権協定に基づいて制定された「昭和40年法律第144号」という法律が日本にあります。日本に残されている朝鮮人労働者の未払金や郵便貯金の解決方法を考えます。

3月28日(月) 第6回

韓国併合条約とは

岩波ブックレット『韓国併合110年後の真実』(NO.1014)(和田春樹)を参考に考えます。



このままでいいの？

再生可能エネルギーの進め方 part 9

—再エネ促進の影で起きていること



政府はカーボンニュートラル達成のため、再エネ導入に拍車をかけ、都市のスマートシティ化なども推進しています。これらの導入にはリチウムやコバルト、銅など希少金属が必須ですが、その採掘は現地先住民の迫害と自然破壊をもたらし、その争奪戦は激化。枯渇も予想されています。国内では、風車建設をめぐる、地権者とのトラブルが発生しています。国も事業者も語らない影の部分の学び、地域のエネルギー自治のあり方など、市民が持つべき視点を深めていきます。

日程 10月26日(火)開講 全6回 月1回火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)



10月26日(火) 第1回

スマートシティのリスク

●加藤 やすこ(かとう やすこ)

環境ジャーナリスト、いのち環境ネットワーク代表

政府はスマートシティを推進しているが、インフラとして5Gが必要であり、電磁波被曝、サイバー攻撃など問題がある。スマートシティの一環として再エネの導入を目指す地域もあるが、健康や環境に負荷を与える側面がある。問題点を検証します。

11月30日(火) 第2回

大規模な再エネ設置と先住民の土地/人権

●西原 智昭(にしはら ともあき)

星槎大学共生科学部・特任教授

●佐々木 邦夫(ささき くにお)

風力発電の真実を知る会

国内で自然豊かな地方の生態系や生物多様性、景観などを無視する形で大規模な再エネ設備が建設される。途上国でも同じことが起こっており、特にその土地の先住民の犠牲は深刻である。世界の事例からそれを俯瞰する。

12月28日(火) 第3回

日本の中山間地を脅かす、大型風力発電計画について

●徳本 修一(とくもと しゅういち)

トゥリーアンドノーフ株式会社代表取締役、農業経営者

疲弊する中山間地・限界集落では、大型風力発電事業で得られるわずかな地代に希望を抱き、地権者が土地契約を交わすケースが多々あります。事業計画が進む中山間地の実態を報告しながら、抑止するための具体策を考えて行きます。

1月25日(火) 第4回

再エネから考えるエネルギー市民自治とは

●神代 知花子(くましろ ちかこ)

石狩市議会議員

全国の再エネ計画地の住民団体がつながり、国による事業者優先の進め方にNOの声を上げ始めた。グリーン成長戦略の名の元、再エネが導入される地方で、「反対運動」による住民の分断を越えて、どのようにエネルギー自治を構築していけるか考察します。

2月22日(火) 第5回

電気料金の仕組みを知る

●小坂 直人(こさか なおと)

北海学園大学名誉教授

FITを支えているのは再エネ賦課金(3.36円/kWh)です。また、主として原子力を支えているのは電源開発促進税(0.375円/kWh)です。月々負担する額は小さなものですが、これが二つでは3兆円にもなり、油断はできないのです。

3月22日(火) 第6回

小さな林業の大きな可能性

●中嶋 建造(なかじま けんぞう)

NPO 法人自伐型林業推進協会代表理事

地方創生と土砂災害防止のカギ「自伐型林業」。大規模な木質バイオマス発電は森林・林業を破壊する。

協同労働が社会を変える

—労働者協同組合法の成立と新しい働き方



2022年10月1日労働者協同組合法が施行されることとなり、この法律や労働者協同組合についての解説が様々なメディアで取りあげられています。しかし、具体的にイメージできる方はまだまだ少数であると思います。できる限りわかりやすく労働者協同組合法、労働者協同組合の基本的な仕組みを紹介し、すでにこの働き方を実践している事例を聞いて、今後社会にどのような変化をもたらすのか考えてみたいと思います。

日程 10月28日(木) 開講 全4回 月1回木曜 18:00～20:00

会場 愛生館サロン (愛生館ビル6F 南側奥)

受講料 通し(会場・オンライン共通) 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 石本 依子 (いしもとよりこ)

ワーカーズコープ北海道事業本部副本部長。2010年3月ワーカーズコープ入団。篠路コミュニティセンター館長在任中に、まちづくり活動を行ったことから地域の居場所の必要性を感じ、2017年5月「篠路まちづくりテラス和氣藍々」を立ち上げました。

10月28日(木) 第1回

労働者協同組合法とはどのような法律なのか

●岩城 亮平 (いわきりょうへい)

ワーカーズコープ北海道事業本部 事務局長

11月25日(木) 第2回

協同労働の協同組合とは

●北村 久美子(きたむらくみこ) 佐藤 真美(さとうまみ)

ワーカーズコープ 地域交流拠点ピリカ

●鈴木 祥江 (すずきさちえ)

ワーカーズコープ 恵庭

協同労働の協同組合は、働く人々と市民が力を合わせて出資し、民主的に経営し、責任を分かち合っ、人と地域に役立つ仕事をおこします。働く者、市民の垣根を越えて協同する中で、より良い地域社会の実現を目指して、よい仕事を追求していく事例を紹介します。

12月23日(木) 第3回

協同の力で仕事を起こす・まちづくりにいかす

●梶原 隆 (かじわらたかし)

ワーカーズコープ 手稲老人福祉センター

●諸澤 郁子 (もろさわいくこ)

ワーカーズコープ 旭川みんなのおうちカムカム

地域社会にある様々な課題に目をむけ、市民と共に地域のニーズに応える活動が始まっています。市民がまちづくりの主体者となり仕事をおこし、協同労働と社会連帯活動に展開していく過程を紹介します。

1月27日(木) 第4回

どう活用する？ 労協法

3回の講座を聞いて、感じたこと、考えたことなど、第1回～第3回の講師を交えて意見交換し、これからの働き方についてみなさんと一緒に考えます。

産金・産油大国のソ連崩壊 30年

—篤農家と小農家族経営を清算した歴史的禍根



ソ連革命の限界とソ連崩壊の根本原因は、マルクス主義のドグマ「農業も大規模経営が優勢」を過信、富農と小農家族農業を敵視した結果、スターリンの死後、農業が巨大赤字部門に身を落とし、自国が法外な穀物輸入国に転落した。だが、天賦の産金産油国=ソ連は問題を先送りした。一方、西側は省エネ技術で石油危機を克服。1985年以降原油価格も下落。原油収入激減のソ連は国家破産。ここで連邦構成共和国が独立すれば連邦解体は必至。

日程 11月11日(木) 開講 全4回 月1回第二木曜 18:45～20:45

会場 愛生館サロン (愛生館ビル6F 南側奥)

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 佐々木 洋 (ささきよう)

異論派メドヴェージェフ兄弟研究者。関連業績：メドヴェージェフ著・拙訳(1995)『ソヴィエト農業』北大図書刊行会。拙稿「産金・産油国としての旧ソ連体制の崩壊」佐々木他編(2000)『ロシア極東の農業改革』御茶ノ水書房。

11月11日(木) 第1回

1917年革命と1929~32年第二革命

- ①現実「小農経営主体」vsドグマ「農業も大規模経営が優勢」
- ②大飢饉を招いたスターリンの譲歩：農戸の宅地付属の副業菜園を容認

12月9日(木) 第2回

スターリン晩年期の農業=アキレス腱論争

- ①ヤスニー：農村収奪が体制を脅かす致命的弱点
- ②外交官ケナン：コルホーズへの国民的不满
- ③ヴォーリン：個人副業への依存の高さ

1月13日(木) 第3回

産金・産油国の僥倖：農業問題を先送り

- ①マガダン・コリマ流域砂金鉱
- ②西シベリアで石油噴出・最大級の産油国に
- ③赤字農場の増産よりも、原油で穀物を輸入するのが安上り

2月10日(木) 第4回

1985年の逆石油危機とペレストロイカ

- ①米国カンザス・アイオワ農民の驚き
- ②西側の省エネ・省資源が原油暴落を誘発
- ③連邦国家の財政破綻と連邦構成穀倉共和国の独立宣言

選んだ人とざっくばらんに！ 民主主義って何だ？ 政治家と語ろう

2015年前期から始まったこの政治家との対話講座「選んだ人とざっくばらんに」も6年になりました。本年度は間違いなく総選挙の年です。そこへ向け、北海道内小選挙区、衆院北海道比例区の立憲野党候補予定者をゲストにした対話を集中的にやりたいと思っています。決まり次第、都度ご案内させていただきますのでよろしくお願い致します。

●会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) など ●参加費 500円/回

※開催日時・ゲストは確定し次第、ウェブサイト、ML等でご案内します。

※ゲストとの調整上、会場が変更になる可能性もあります。事前にご確認いただいたうえ、ご参加願います。

オーガニック・自然食品専門店

らる畑

おべんとうとおそうざい

らるごはん

札幌市中央区大通西23丁目
Tel 614-2406 Fax 614-3836
http://rarubatake.com
10時～19時(日～17時・祝～18時)

Simple Life, High Thinking

小4から高3まで

スコアレ ユウ

〒007-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
TEL. 785-0228

いつだって No Nuke!

北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

衣食住を相対化する

—新しいライフスタイルの模索



分散的で循環型の技術が、日常生活の中に浸透してきています。自律し健康で充実した日々を送るために、うまく活用していきたいと思えます。それは、私たちのこれまでの常識や価値観を大きく変えていくことにもつながります。循環社会を推進するためには、個性、多様性を尊重しながら、日常生活も方向転換する必要があると思えます。様々な話題を提供しますので、新しいライフスタイルについて、楽しく話し合しましょう。

日程 11月13日(土) 開講 全5回 月1回第二土曜
オンライン開催 14:30～16:30 **会場開催** 14:30～17:30
 ※前半は会場とzoomの同時開催、後半は会場だけの体験を含む講座

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 会場 一般8,000円 会員6,000円 オンライン4,000円
 (単発 一般2,000円/回 会員1,500円/回 オンライン1,000円/回)

講師 俵屋年彦(たわらやとしひこ)

テクノロジーの民主化を進めるTAWA LAB創設者。インターネット、ソーシャルメディア、新しいテクノロジーなどの講座を、2013年から継続しています。コミュニティFM三角山放送局で1998年から23年間、生番組のパーソナリティーを継続中。1996年からインターネットのホームページ、ブログ、ソーシャルメディアなどで情報発信を続けています。



11月13日(土) 第1回 睡眠

「充実した一日を過ごせば、幸せに眠れる」(ダ・ヴィンチ)。睡眠の意味、快適な睡眠法など、多角的に睡眠に迫る。

2月12日(土) 第4回 住宅

「住宅は住むための機械である」(ル・コルビュジエ)。「未来の建築は柔らかく毛深いものになるだろう」(ダリ)。

12月11日(土) 第2回 食事

「食物に対する愛より誠実な愛はない」(バーナード・ショウ)。食事の人類学的意味、SDGsな食事の可能性を探る。

3月12日(土) 第5回 都市

「都市は人類の掃き溜めである」(ジャン・ジャック・ルソー)。従来の自然と都市の対立を超える新しい都市をつくる。

1月8日(土) 第3回 衣装

「平和は人間の衣装である」(ウィリアム・ブレイク)。ファッション、衣装を通じて環境問題、世界平和を考える。



電子書籍出版実践講座 2021

紙の書籍、電子書籍、それぞれに良さがあります。ただ、自主出版するなら、電子書籍がとても簡単です。特別なソフトを使わなくても無料で出版でき、価格の70%の印税を得ることが可能です。電子書籍の出版方法から出版前後の取り組みについて具体的に解説します。電子書籍を出版したい方を対象にした実践講座です。この講座のためのFacebookページを用意しました。講座前から情報を提供し、講座後も相談に乗ります。

FacebookページのアドレスとQRコードです。https://www.facebook.com/densyo2021

日程 11月6日(土) 14:00～16:00 **オンライン開催** **参加費** 1,000円

講師 俵屋年彦(たわらやとしひこ)

さっぽろ自由学校「遊」理事。2013年から電子書籍を40冊以上出版しています。過去の遊講座の電子書籍化も計画しています。



老いと向き合う part 6



日々老いていく自分を受け止め、どう前向きに生きていったらいいのか。仲間や関係団体、施設の方々に話題提供していただいた後、参加者で自由に語り合います。出会いと、お互いの経験に学びあう機会になっています。ぜひ一度のぞいてみてください。

日程 10月1日(金) 開講 全5回 月1回第一金曜 14:00～16:00

※1月は参加者交流会を予定しています。詳細は開講後ご案内します。

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し2,500円(単発600円)

10月1日(金) 第1回

親を看取る・家族との距離を考える

●今 嗣王(こん つぐお)

東区在住 70代男性

いつも時間切れで話し足りない感が残るこの講座、今回は話題提供者の話を極力短めに抑え参加者の意見交流を中心にします。親の看取り・家族との関わり方について感じるところのある方ぜひご参加ください。

2月4日(金) 第4回

『在宅ひとり死のススメ』を読む

●細谷 洋子(ほそや ようこ)

さっぽろ自由学校「遊」理事

当事者目線から、老後の問題を調査研究してきた上野千鶴子さんが語る「おひとりさまでも、認知症でも大丈夫。慣れ親しんだ自宅で幸せな最期を迎える方法」。その準備と心構えに触れて語り合しましょう。本書を読まずに参加されても大丈夫です。

*『在宅ひとり死のススメ』上野千鶴子(文春新書2021)

11月5日(金) 第2回

高齢者施設入居者の相談に関わって

●返町 賢治(そりまち けんじ)

「遊」会員 楽ゆう館ふしみ相談員

高齢の方が暮らす施設では、看護や介護の他にも入居者の暮らしを支えるさまざまな仕事があります。認知症の方もいる入居者の相談やサポートを通して見える、施設での暮らしの様子をお話しいたします。

3月4日(金) 第5回

コロナ禍で高齢者施設の抱えている問題

●巻淵 悠(まきぶち ゆう)

サービス付き高齢者向け住宅職員

新型コロナウイルスが広がっている中、高齢者施設でも様々な問題が出てきています。ワクチンの接種についても含めて、色々な施設の状況の報告を聞きながら共に考えます。

12月3日(金) 第3回

『葬送を考える市民の会』に聞く

—墓を中心に

●齋藤 弘美(さいとう ひろみ)

葬送を考える市民の会副代表

少子高齢化やライフスタイルの変化により、継承者、管理も不要で費用も安い合同墓が目立っています。後悔したくないお墓選びを考えてみませんか。また、「葬送を考える市民の会」のこれまでの活動についてもお話しいたします。



過去を今に伝える現在のサハリン

—歴史理解を深めるために



現在の世界をよりよく理解するためには正確な事実に基づく歴史認識を獲得することが大切です。本講座では北海道から一番近く、歴史的関係も深い外国、ロシア・サハリン州について2期にわたって日本との関係を軸に2世紀にわたるサハリン島・樺太の歴史を学習してきました。後期では日本で殆ど知られてこなかった20世紀初期からの北サハリンに目を向け、同時にこの時期に数奇な運命を生きた人物の個人史に光を当て、社会の流れを実感したいと思えます。また、日ソ戦争後にサハリン社会はどのように形成されたか、日本人との共生、引揚げ、残留日本人の問題、ソ連崩壊後の変化、現在のサハリン州、映像も使用し、全般的な理解を目指します。

日程 10月12日(火)開講 全5回 月1回第二火曜 18:30～20:30

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

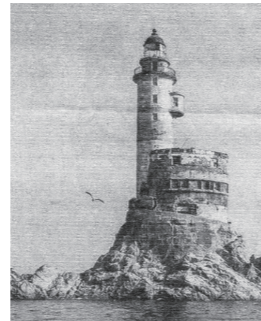
(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 小山内道子(おさないみちこ)

元道教育大ロシア語非常勤講師、翻訳家、サハリン・樺太史研究会会員

*アシスタント コジエーブニコワ・ダリア(大学院生、専門のテーマを報告)

※最初に「簡単なロシア語」10～15分、時々「原語で歌うロシア民謡」



1939年日本によって建造された美しい樺太中知床岬灯台。現在、遊覧観光地として人気。

10月12日(火) 第1回

日露戦争以降の北サハリンの状況、日本軍による再度の占領時代

- 1) 帝政時代から革命へ
- 2) シベリア出兵、日本軍侵攻・統治時代
日本軍と親しかった炭鉱経営者ペトロフスキー家の運命
- 3) ヴィノクーロフ、富の蓄積：出世と亡命への道筋

11月9日(火) 第2回

隔絶されていた北サハリン

- 1) ソヴェート政権の成立—日本軍協力者の摘発と粛清
- 2) 1925年、日ソ基本条約締結—日ソ国交回復
- 3) 北サハリンから樺太への亡命者たち
*マルキアン・ポリシコとニーナの運命(大鵬の異母姉)

12月14日(火) 第3回

現在のサハリン人とは誰? 出身地は?

- 1) 第二次大戦後のソ連の状態、サハリンへの移住政策、過程、特典
サハリン移住者の入植地：地図と統計
- 2) 日本人との共生、日本人の引揚問題と引揚の過程
- 3) 引き揚げられなかった人々：残留日本人、朝鮮人
*日本人の違和感：インタビューと「回想記」等の証言

1月11日(火) 第4回

日本領樺太からソ連領サハリン州へ樺太社会の社会主義化への道

- 1) 日本人住民統治：登録、経済活動復帰、学校、生産再開、イデオロギー教育
新聞「新生命」、地名変更、娯楽…
- 2) 日本人の引揚、ソ連移住者の遅れ—労働力不足、建築、生産の遅滞
- 3) 米ソ対立による軍事力増強と住民生活へのしわ寄せ
→「鉄のカーテン」時代
*思想統制と検閲、母国との交流の不可能、残留邦人 F.N.さんの「回想記」か

2月8日(火) 第5回

ソ連崩壊後30年 現在のサハリンと日本、北海道

- 1) サハリンと北海道との関係：領事関係、交通、経済・貿易活動
- 2) 姉妹関係市町村交流、教育・文化交流、サハリンに関する研究活動
- 3) サハリン観光、日本領樺太時代の文化遺産とその保護
◎サハリン史を学習して：感想と話し合い

新・北海道アート鑑賞講座

—コロナ後の美術鑑賞について



2019年から始まったコロナ騒動で、テレワーク・営業自粛・ネット授業・自宅待機などを余儀なくされた生活が続いています。ワクチン接種も始まっていますが、有効性にはまだまだ疑問も多く、今後もコロナ禍は当面続くことが予想されています。こうした中、アートに接する機会も大幅に減少し、今後のアート鑑賞や各種アートイベントの継続不安が日増しに大きくなっています。そこでコロナ後のアートを見据え、イベントの持続・作品保護やアーカイブを含めたアート鑑賞講座を企画いたしました。

日程 11月19日(金)開講 全4回 月1回第三金曜 18:45～20:30

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 くらだとしひこ

1956年生まれ。北海道教育大学・非常勤講師(音楽及び芸術)。NPO 小さなカレッジ代表。ポピュラー音楽史研究者。『北海道ジャズ物語』(2006年出版)編著者。SMG編集長。

11月19日(金) 第1回

西洋美術の見方 —デジタル・アーカイブの利用

多くのアートの基本とされている西洋美術の歴史や系譜について解説・紹介いたします。?また有名絵画について紹介いたします。さらにコロナによってデジタル・アーカイブが進む中、無料で閲覧できる有名美術館などを紹介いたします。

12月17日(金) 第2回

北海道美術の流れ —未来の美術展

北海道に西洋画の歴史が始まり、現在までの道のりについて解説・紹介いたします。道内の美術協会(道展・全道展・新道展)、道内各地の美術館・ギャラリーなどを紹介いたします。

1月21日(金) 第3回

北海道の画家・名画 —次世代へ残したい道産子画

戦前・戦後の北海道の画家や有名作品について紹介・解説いたします。?北海道でのアートと社会の時代背景について紹介いたします。?道内のデジタル・アーカイブ化の現状について紹介。

2月18日(金) 第4回

道内の各種アートイベント —新しいアート・国内の専門美術館

道内各地で行われているアートイベントや国内の専門美術館や有数の美術館について紹介します。また今後の気になる企画展や面白アートなどについて紹介いたします。

みどり内科

クリニック 内科・消化器科

注射でラクな内視鏡検査できます。

白石区本郷通13丁目南4-27 ムトウビル2階 ☎866-4563 P有

自然食ホロ

札幌市東区中沼西
5条2丁目3-16
TEL: 887-6224

いつも喜んで、
感謝して。

<http://horo.sunnyday.jp/>

東ティモール マウベシ珈琲

オーガニックカフェやショップで販売中
フェアトレードの美味しいコーヒー!!

NPO 法人 ほっかいどうピーストレード
TEL 070-5619-3222
hokkaidopeacetrade@gmail.com

☺☺☺☺☺

アイヌアートデザイン教室



アイヌ民族が先住民族と認められてからまだ日が浅いですが、アイヌ文化・芸術の歴史はとても深いものです。生徒さん自身の手で作る事によって、それらの文化を身近に感じる事ができると思います。是非一度チャレンジしてみませんか。お待ちしております。



日程 10月13日(水)より
月2回 第二・第四水曜 13:00～15:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

受講料 4,000円/月(材料費は含みません)

※受講をご希望の方は、クラスの見学(1回)可能です。まずはお問い合わせください。

講師 貝澤 珠美(かいざわ たまみ)

アイヌアートデザイナー。1974年8月10日平取町二風谷に生まれる。高校卒業後デザイン学校に通い、'97年に独立。ファッション、インテリア、アクセサリー等、アイヌ文様をモチーフにしたオリジナル作品を製作している。



読書室よりみちまわりみち



“読書が好き”“興味深い本を紹介してほしい”そんな仲間が集まる、気さくて楽しい場です。ジャンルは問いません。これまで、話題の本、ノンフィクション、旅行記、エッセイ、時代小説から現代小説まで、そして絵本、写真集、歴史、社会、など様々な分野の本が紹介されてきました。普段なかなか手にとることのない本を紹介され、自分の興味対象が広まっ、たりすることも多かったです。自分がおもしろかったと思う本を紹介し合うことが基本ですが、そこからいろいろに話が広がったりすることも多く、それも楽しいです。話を聞くだけでも、おしゃべりするだけでもok、朗読もokです。是非一度、覗いてみてください！本を通して一緒に楽しいひとときを過ごしませんか？新しい仲間をお待ちしてま～す！

日程 10月16日(土)より 全6回 月1回第三土曜 14:00～16:00
10/16、11/20、12/18、1/15、2/19、3/19

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 1回500円 通し2,500円



花さんと読む、詩の世界

—茨木のり子と石垣りん



昨春から、茨木さんと石垣さんの詩を1編ずつ読んで、みんなで話し合っています。まったく個人的ですが、詩を読むとは作者の生きた社会のありようを知り、生き方を探ることか、と思うようになりました。詩人のきらめかせた言葉は、読むもの自らの生き方を省みる契機になります。そして私たちの感想は一致することもあれば、まったく異なることもあります。不思議です。わいわいガヤガヤは続いています。

日程 11月11日(木)開講 全5回 月1回木曜 14:00～16:00
11/11、12/9、1/13、2/10、3/10

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

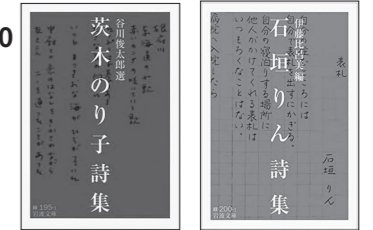
参加費 一般7,500円 会員6,000円 25歳以下3,000円

チューター 花崎 皋平(はなざき こうへい)

1931年東京生まれ。著述業。著書に「田中正造と民衆思想の継承」「天と地と人と - 民衆思想の実践と思索の往還から」(いずれも七ツ森書簡)など、詩集に「チュサンマとピウスツキとトミの物語他」(未知谷)「長編物語詩 アイヌモシリの風に吹かれて」(小樽詩話会)など

テキスト 『谷川俊太郎選 茨木のり子詩集』『伊藤比呂美編 石垣りん詩集』(いずれも岩波文庫)

※両詩集は各自でご用意ください。参加者が持込む関連資料を歓迎、コピー配布します。



マルクス・エンゲルス著 『共産党宣言』を読む



カール・マルクスとフリードリッヒ・エンゲルスの『共産党宣言』を輪読しながら、討論を交え、じっくり進めたいと思います。『共産党宣言』は、唯物論的歴史観、経済学、さらには階級闘争を含めた内容をもっており、とても重要な問題が提起されています。自分で、そして一緒にマルクス・エンゲルスの本を読み通す喜びを味わってみませんか。

日程 10月6日(水)開講 全6回 月1回水曜 18:45～20:45
10/6、11/3、12/1、1/5、2/2、3/2

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 一般4,800円 会員3,600円 25歳以下1,800円
(単発 一般1,000円 会員800円 25歳以下400円)

チューター 宮田 和保(みやた かずやす)

熊本県生まれ。北海道大学卒業。現在、北海道教育大学名誉教授。専門は、理論経済学(マルクス経済学)と言語理論です。せつかれるのが極めて苦手で、マイペースでしか生きていけない性格です。

テキスト マルクス・エンゲルス著『共産党宣言』

テキストはいろいろな翻訳がありますが、訳の現代性と注解を考慮すれば、そして文字の大きさからすれば、大月センチュリーズ版を薦めます。



ひとしんせい 『人新世の「資本論」』を読む



「人新世」とは地質学の用語で、人類の活動が地球の表面を覆いつくす年代のこと。現在は“資本主義の際限なき利潤追求が地球を破壊しつつ環境危機の時代”で、“気候変動を放置すれば、この社会は野蛮状態に陥るだろう”と著者は言う。この危機を脱出するヒントは、最近新たに注目されている晩期マルクスの草稿中に眠っていた。キーワードは「コモン」。時代を切り開く「コモン」とは何か、参加者が話し合いながら読み進めます。

- 日時** 10月16日(土)開講 全6回
月1回第三土曜 14:00～16:00
10/16、11/20、12/18、1/15、2/19、3/19
※2022年度前期も継続予定
(全6回、4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17)
- 会場** 愛生館サロン(愛生館ビル6F南側奥)
- 参加費** 3,000円(単発600円)
- テキスト** 齋藤幸平著『人新世の「資本論」』
(集英社、2020、本体1,020円+税)



『大学による盗骨』を読む

昨年度開講の読書会(『アイヌ近現代史読本』を読む)を受け継ぎつつ、遺骨返還問題に焦点を当てて皆さんと一緒に学んでいきます。テキストとして、総勢26名の著者が論考を寄せている『大学による盗骨』を取り上げ、様々な角度からこの問題に迫ります。また、参加者の皆さん自身の経験や知識、情報などを交換できる場にもしたいと思っています。学生さんの参加もぜひお待ちしております。

- 日時** 10月27日(水)開講 全6回(読書会5回+講座1回) 月1回水曜 18:45～20:45
10/27、11/24、12/22、1/26、2/9*、3/23
- 会場** さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)
- 参加費** 4,000円 25歳以下2,000円
- テキスト** 松島泰勝・木村朗(編著)
『大学による盗骨—研究利用され続ける琉球人・アイヌ遺骨』
(耕文社、2019、本体1,800円+税)



- 〈目次〉 I 琉球の遺骨返還問題 II アイヌの遺骨返還問題
III 植民地主義と学問の暴力 IV 京都大学を訴える
- 〈進め方〉
- 参加者が交代でレポーターとなって読み進めていきます。
 - 取り上げる内容は、参加者の興味関心に応じて決定します。

※2/9の回のみ、「明治のサッポロのアイヌ史を掘る」第5回との合同開催となります。『大学による盗骨』にも論考を寄せている小田博志さん(北海道大学大学院文学研究院教授)にお話を伺います。詳細は9pの講座案内をご覧ください。

カムイチェブ・プロジェクト研究会

カムイチェブ=サケは、先住権運動のシンボルであると同時に重要な食資源・経済資源であり、また海と川(陸)を繰り返し行き来するその習性によって自然生態系の物質循環に大きく貢献しています。私たち人類に100点満点の生態系サービスをもたらしてくれるサケと、この先もうまくつき合い続けるにはどうしたら——。昨年度に続きウェビナー方式で専門家・当事者と市民を結びながら、「北海道の新しいサケ管理」を探ります。

- ◆日程 10月21日、12月16日、2月17日 いずれも木曜夜 18:30～20:30
- ◆会場 zoomを使用したオンライン開催
- ◆参加 研究会というスタイルのため、参加者には積極的な貢献が期待されます。(参加費は無料)

『カムイチェブ読本 北海道の新しいサケ管理』
2021年3月31日発行 A5判56ページ オールカラー
カムイチェブ・プロジェクト研究会 著(編集・平田剛士)

2020年度のカムイチェブ・プロジェクト研究会の成果を元に作成。北海道のサケとアイヌ民族との関係や、野生サケの保全の必要性を論じ、新しいサケ管理のあり方を提言しています。入手ご希望の方は「遊」事務局(syu@sapporoyu.org)まで。



SDGs (国連・持続可能な開発目標) 北海道メジャーグループ・プロジェクト



2015年9月の国連総会において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17の持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)が2030年までの世界共通目標として掲げられました。「遊」では2015年度よりSDGsを下敷きにした北海道の地域目標づくりなどに取り組んできました。現在、SDGsに取り組む様々なグループと連携し、「北海道メジャーグループ・プロジェクト」による対話のプロセスを進めています。

2020年度は、女性、ユース、農民、障害者、地域コミュニティ、NGO・NPO、研究者、企業の各グループがそれぞれグループミーティングを行い、全体ミーティング(2020年12月開催)で各々の未来像や行動案を共有しました。今年度もこの取組みを継続していきます。

北海道メジャーグループ・プロジェクト2021
キックオフミーティング - 未来の描き方入門 -
2021年9月12日(日) 14:00～17:00 オンライン開催

※「北海道メジャーグループ・プロジェクト2020報告書」(A5判62ページ・カラー)が近日中に完成予定です。入手をご希望の方は、「遊」事務局(小泉)まで。syu@sapporoyu.org

NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」 設立趣意

さっぽろ自由学校「遊」は、1990年に設立されました。その最初の呼びかけを引用します。「私たちの住む世界は、めまぐるしい変化を見せています。東欧諸国の自由化の波、アジア・第三世界の解放の動きから私たちのすぐ身近な食べ物、環境、文化まで、新しい〈価値〉が生み出されようとしています。そして、その主人公はどこかの偉いさんではなく、一人ひとりの〈わたし〉のはずです。自由学校「遊」は、そんな〈わたし〉が出会い、学び合い、〈わたし〉と〈世界〉との新しいつながりを創りだすことを願ってつくられました。」

今、21世紀の入り口に立って、新たに以下のことを目指します。

自立と共生 さっぽろ自由学校「遊」は、この呼びかけにあるように自由で自立した市民として、国籍や国境を超えて広くアジアや世界の草の根の市民とつながり、共生するための生き方、知識、技法を身につける場となることを目指します。

平和と人権 さっぽろ自由学校「遊」はまた、一人ひとりの市民が、かつての植民地支配と侵略戦争が他の諸国の人々にもたらした加害の歴史を認識し、その罪に対する反省を共にし、平和と民主主義、正義と人権の理念を、市民社会の日常倫理として身につける場となることを目指します。

交流と提案 さっぽろ自由学校「遊」はまた、教える者と教えられる者の関係が固定した、従来の教育制度上の「学校」ではなく、市民が、考えや知識や技能を相互に交換しあい、お互いのより良い生き方、お互いが恵みを受けている地球環境と人間社会の共生のあり方を探求し、提案し、行動のきっかけを見つける学び合いの場として発展することを目指します。

(2000年7月23日起草)

市民がつくる市民のための学びの場 さっぽろ自由学校「遊」を応援してください！

さっぽろ自由学校「遊」の活動資金は、各事業の参加費のほか、皆様からの会費や寄付金によって賄われています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

■「遊」の会員になってください

- a. **正会員（年会費 5,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同し運営に協力する会員。年1回開催される総会への参加の他、随時行われる企画・運営会議にも参加できます。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- b. **準会員（年会費 3,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同する会員。ただし、運営上の権利および責任はもちません。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- c. **特別会員（月 4,000 円／年間 48,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の活動を資金的に支えていただく会員。議決権などの法人運営上の諸権利は正会員と同じ立場です。単発参加可能なすべての連続講座を無料で受講することができます。

■ご寄付をお願いいたします

- a. **一般寄付** いただいたご寄付は、「遊」の運営・事業全般に活用させていただきます。用途を特定される場合は、その旨明記のうえお振込願います。
- b. **ひと基金** スタッフの件費補助や、研修等への派遣旅費の補助など、幅広い人材を育成していくための資金援助を目的とした基金です。（1口 5,000 円）

<ご入金の方法> 郵便振替用紙に必要事項を明記の上、お振込願います。

郵便振替 02780-5-47036 口座名：自由学校「遊」